

令和8年度 香川短期大学
一般選抜前期
『現代の国語』『言語文化』問題用紙

令和8年2月1日

注 意

1. 試験監督の指示があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題は□一□から□四□まで、14 ページあります。
3. 解答用紙、問題用紙ともに受験番号を記入しなさい。
4. 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号	
------	--

一

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。なお、設問の都合により一部改変がある。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください

(今井むつみ『学びとは何か―〈探究人〉になるために』による)

註1 葛飾北斎：江戸時代末期の浮世絵師。「富嶽三十六景」「北斎漫画」「富嶽百景」ほか多くの名作を残した。

註2 羽生善治：将棋の棋士。優れた対戦成績をあげ、二〇一八年に国民栄誉賞を受賞した。

註3 軛なぐえ：くびき。牛馬の首にかけて荷車を引かせるために渡した軛なぐえの先端に付けた横木。転じて自由を束縛するものの意。

問一 二重傍線部のカタカナと同じ漢字を含むものを、各選択肢から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

㉔ テンブ ア フヨウ家族を申告する イ 離島の小学校にフィンする ウ 発酵食品のハンブを始める

エ ゲツブで家電を購入する オ メールのテンブ情報を確認する

㉕ ショウゲキ ア 車が防波堤にショウトツする イ 事故の損害バイショウを求める ウ ソショウを起こす

エ 犯行のショウコ品を示す オ 計画がアンショウに乗り上げる

③ セイギョ ア 最頂のチームがレッセイになる イ 暴動がチンセイ化する ウ ロッカーをセイトンする

エ セイウンの志を抱いて上京する オ 出入りがキセイされる

④ オサめる ア 土塀をホシユウする イ 患部をチリヨウする ウ 経済トウケイが発表された

エ ノウゼイの手続きに行く オ 痛みがオサまる

⑤ カンシヨウ ア 山の初カンセツが観測された イ カンタクで作られた新田 ウ 災害に備えて注意がカンヨウだ

エ 軽率な行動はカンカできない オ 知識と感性のカンヨウを目指す

問二 傍線部④「ブレークスルー」、⑤「ポテンシャル」の意味として最も適当なものを各選択肢からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

④ 「ブレークスルー」： ア 現状維持 イ 難関突破 ウ 創意工夫 エ 唯一無二 オ 千載一遇

⑤ 「ポテンシャル」： ア 技術向上 イ 経験年数 ウ 専門知識 エ 達成目標 オ 潜在能力

問三 空欄（A）に入る語を文中から三字で抜き出して答えなさい。

問四 空欄（B）に入る語として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 縦横無尽 イ 知行合一 ウ 自由奔放 エ 深謀遠慮 オ 臨機応変

問五 空欄（C）に入る文として最も適切なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 長年の熟練により発揮される正確なパフォーマンスにより達成できるものである。
- イ すでに存在する要素をいままでにないやり方で組み合わせることから生まれるのである。
- ウ 何もないところから一気にまったく新しいものを生み出すことから生まれるのである。
- エ 困難に打ち克つ折れない心、問題解決に向けて挑戦しつづける心に支えられて生まれるものだ。
- オ 個人の経験から紡ぎ出されるものであるから、他人と共有することは難しいものである。

問六 傍線部①「いま持っている知識は新しい知識を創るベースとなるとともに、^{くびき}軌ともなる」とあるが、「軌ともなる」（もの）とは何か。それにあたる語句を、傍線部より後の文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線部②「超一流の熟達者」に当てはまるものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何もないところから、まったく新しいものを生み出す創造性や柔軟性を持っている人
- イ 目標への道筋などの明確化のため、その分野の誰よりも優れた技術や力量を備えている人
- ウ その専門分野において、長年の熟練により、素早く正確に安定したパフォーマンスが発揮できる人
- エ 誰もがまだ到達していない目標地点が見え、その実現のために何をすべきかわかっている人
- オ 結果への願望を持ち続け、自らの直観に従いながら、批判的で柔軟な思考力を持っている人

問八 本文の論旨に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 創造性は特別な才能持つ人がその分野で示す特別な能力であるので、物事を解決する能力や技術とは直接関係しない。
- イ 超一流の熟達者は的確な目標を設定し、そこを目指す過程で経験と知識を活用して学習し、さらに高い域に達する。
- ウ 「天才」と呼ばれる人たちは、的確な自己分析とその克服方法を編み出す能力と自己管理能力とを早期から身につけている。
- エ 真の創造性は何もないところから新しいものを生み出すことが重要であり、その実現への強い意欲が要求される。
- オ 創造的な熟達者になるためには、的確な目標を設定するとともに、自分が望む具体的な結果をイメージすることが重要である。

二

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。なお、設問の都合により一部改変がある。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください

(幸田文『台所のおと』による)

註1 寝勝手：寝やすい向き、寝かた。 註2 料られて：料理されて。 註3 東大：東京大学医学部付属病院。

註4 屋号：商店の名。 註5 バラック住宅：あり合わせの材料で間に合わせに建てた粗末な家屋。

註6 はばかり：便所。 註7 メリヤス：メリヤス編みの生地。伸縮性に富み、靴下や下着に用いる。

問一 二重傍線部⑥「小豆」、④「体裁」の読み方をひらがなで答えなさい。

問二 二重傍線部①「形になんかなってるものではない」、③「床についた」について、本文における意味を各選択肢から選んで、記号で答えなさい。

① 形になってるものではない

ア 十分に成長してはいない イ 思いを伝え合ってはいない ウ 技術が十分に身につけていない

エ 結婚年齢に達してはいない オ 美しい身のこなしができてはいない

③ 床についた

ア 就寝した イ 目を閉じた ウ 板の間に横になった エ 床の間で休憩した オ 病気になった

*以下の「問三」「問四」「問七」は、“抜き書き”ではない。問題文全体から考えて答えること。

問三 傍線部①「この頃はほんとうに小さい音しかたてない」について、その理由を三十字程度で説明しなさい。

問四 傍線部②「週刊誌もくたびれる」とあるが、どういうことを言っているのか、そうなった理由も含めて説明しなさい。

問五 傍線部③「なによりもいちばん病む心憂さの晴れるのは、台所の音を聞くことだった」とあるが、その理由がわかる一文を本文の後半から七十字で抜き出し、その始めと終わりの各十字を答えなさい。ただし、句読点も字数に含む。

問六 傍線部④「そんな手つきなど今迄に注意しておぼえたことはないのだけれど、しよっちゅう見て目の中に入っていたのかと思う」とあるが、どのようなことを表現しているか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 魅力的なあきの姿をいつも無意識に目で追っていたので、実際に見なくても動作のすべてが目には浮かぶということ。

イ 佐吉とあきは一緒に働いてきたから、見るとはなしに彼女の仕事ぶりを覚えてしまったのだということ。

ウ あきに台所仕事を教えるために、佐吉は細々とした動作にも常に注意を払ってきたのだということ。

エ あきが佐吉の仕事をまねているうちに習熟して、今では佐吉に引けを取らない動作ができてきているということ。

問七 傍線部⑤「ほっとする安らぎと疲れを感じる」とあるが、その理由を六十字程度で説明しなさい。

問八 傍線部⑥「賑やかというより、ざわつきといったほうがいいだろうか」とあるが、佐吉が「ざわつき」と思うのはなぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 若さはいつでも騒ぎ出せる下地があるから、初子の賑やかさも今だけのものだと思つたから。

イ 初子が恋をしていることは以前から知っていたため、そのせいで騒々しさを振りまいていると思つたから。

ウ 父の病気を気遣いすることもなく、賑やかに振る舞う初子の様子が瘤に障り、騒々しく思っているから。

エ 静かな娘だと思っていた初子が、若さのせいで騒々しさを発散していると思つてきたから。

三

次の文章を読み、設問に答えなさい。なお、設問の都合により一部改変がある。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います

問一 文中の空欄（F）を補うのに最もふさわしい語を答えなさい。

（鷺田清一『オノマトペの現象学』による）

問二 文中の空欄（A）から（E）を補うのに最もふさわしい語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬声 イ 擬音 ウ 擬情 エ 擬態 オ 異質 カ 対比 キ 類似 ク 等質 ケ 特異
コ いらいら サ とんとん シ わんわん ス ざらざら セ こつこつ

四

次の各設問に答えなさい。

問一 各文の傍線部の四字熟語について、用法として適切なものは○印を、不適切なものは×印を、解答欄に記しなさい。

- ① 自分が参加した討論会で議論が深まらず、隔靴搔痒の思いをした。
- ② 自らの学説に拘泥し続ける学者は、曲学阿世の徒として批判されがちである。
- ③ 彼女は大学内でとても人気が高く、四面楚歌の状況にある。
- ④ 抱き続けてきた心の迷いが一気に解消され、明鏡止水の境地に至った。
- ⑤ 山あいの温泉街を散策しながら、秋霜烈日というべき夕景に見入った。
- ⑥ その一文のために、彼の小説は画竜点睛を欠くものになってしまった。

問二 文意が一通りに限定されるものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 毎日が畑で育てている野菜をよく食べている。
イ 先週末は初めて訪れた宇多津町の音楽ホールで演奏会を開いた。
ウ 私は先月彼女が留学のためイタリヤに行ったことを彼女の父親から聞いて知った。
エ 最近話題のあの水族館で生まれたアザラシの赤ちゃんの名前は、公募で決めるようだ。
オ 伯父は昨日魚の干物をお土産に買ってきてくれた。